

03 特集

今こそ考えよう！

# 働く人の セーフティー ネット

- ・給与明細で分かる社会保障制度
- ・働く人のセーフティーネットQ & A
- ・海外にはどんな制度がある？
- ・世界のセーフティーネット
- ・小熊英二先生に聞く！  
日本のセーフティーネットの  
成り立ちと本質は？

12 仕事人インタビュー

福士蒼汰さん

自分を知り、  
恐れず自分らしく

14 いざという時の

支え合い・助け合いを考えるための  
おすすめコンテンツ

15 働く上で困った時の

相談窓口

## Think Work

### 「人生前半の社会保障」にも目を向けて

社会保障というと、とっつきにくい、自分にはあまり関係がないと感じる人が多いと思いますが、一言で言えば「家族を超えた支え合い」の仕組みです。元気な時はあまり意識しない

かもしれませんが、長い人生の間には、心身のバランスを崩して病気になる、新型コロナを含め、思わぬ形で仕事を失うなど、生活上の困難に直面することがどうしても起こります。そうした時、家族の中での支え合いには自ずと限界もあるでしょう。そこで、皆で税金や保険料を出し合い、医療や福祉や雇用、年金などの仕組みを整え、困った時に活用するのが社会保障です。

若い世代の人は、それでもなお「自分には関係ない」と思っておもかもしれません。それに対して私は「人生前半の社会保障」という考えを提案してきました。社会保障は、医療や介護、年金など主に「高齢者」のための制度だと感じる人が多いと思います。実際、日本の社会保障は現在約120兆円規模で、そのうちの約7割は高齢者関係です。しかし、「社会保障は高齢者

向け」という考えは、実は古い発想です。近年では、非正規雇用の広がりなど、若い世代の方が高齢世代より生活が不安定で、それが未婚化・晩婚化や少子化の背景の一つになっています。教育や雇用の支援など、子どもや若い世代、子育て世帯への「人生前半の社会保障」が非常に重要になってきているのです。

このように、どのような社会保障の仕組みを作るかは、「国のかたち」を決めると言えるほど大きなテーマであり、政治の場でもしばしば議論になっています。社会保障をめぐる動きや今後について、政治をウオッチしたり、意見を表明したりすることが、これからの日本ですます重要になっていくでしょう。



京都大学  
こころの未来  
研究センター教授  
広井良典  
(ひろいよしのり)

厚生省、千葉大学教授をへて2016年より現職。専攻は公共政策、科学哲学。『日本の社会保障』(岩波新書)でエコノミスト賞、『コミュニティを問うおす』(ちくま新書)で大仏次郎論壇賞受賞。近著に『人口減少社会のデザイン』(東洋経済新報社)など。